

愛光園地域居住サポートセンター/あったか生活支援センター  
地域連携推進会議 議事録

開催日時	令和8年3月6日 10:00~11:25	場所	ぎんもくせい
参加者	ご利用者代表 1名 社会福祉法人翌檜 サービス管理責任者 1名 ヘルパーステーション絆 サービス提供責任者 2名 司法書士法人鈴木事務所 成年後見人 2名 町議会議員 1名 愛光園地域居住サポートセンター サービス管理責任者 2名 管理者 1名 <p style="text-align: right;">計 10名</p>		
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あいさつ</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 地域連携推進会議の目的の確認                      地域との関係づくり・グループホームの運営の透明性の確保</li> <li>4. 昨年度受審した第三者評価の結果から考える開かれたグループホームについての意見交換                      外部参加者からは、主に防災、地域との関係づくり、情報発信の重要性について意見が出された。防災について、災害時に支援が必要な方の個別避難計画の作成状況について質問があり、グループホーム利用者についても地域として把握し、避難訓練などに参加する機会を広げることが重要ではないかとの意見があった。また白沢地区では毎年防災訓練を実施しているが、班長中心の参加となっているため、今後はグループホーム利用者や要援護者にも声をかけて参加できる仕組みがあるとよいのではないかと提案があった。                      地域との関係づくりについては、日常的に地域の行事や活動に参加し、顔の見える関係をつくるのが災害時の助け合いにもつながるとの意見があった。特にゴミ出しや清掃活動など、地域の中でできる役割を担うことが大切であり、地域の高齢者などがボランティアとして関われる可能性もあるのではないかと指摘があった。                      また、地域のボランティアや近隣住民が関わるきっかけづくりとして、施設の庭や空間を活用した交流の場づくりを提案する意見があった。障害のある方への理解は実際に関わることで進むため、地域の人がグループホームの存在や利用者の様子を知る機会をつくるのが重要との意見が示された。子どもや子育て世代は地域イベントや学校を通じた情報発信によって参加しやすい面もあるため、チラシや行事などを通して地域に開かれた取り組みを行うことが、理解促進のきっかけになるのではないかと意見があった。                      これらの意見から、地域防災への参加、日常的な地域活動への関わり、交流機会の創出などを通して、地域に開かれたグループホームづくりを段階的に進めていく必要性が示された。</li> </ol>		
その他	各ホームの日常の様子はスライドショーを見ていただいた		

記録作成：小野嘉久